東京の会通信

No.252

2014年1月1日号
（隔月1日発行）

発行：公的骨髄バンクを
支援する東京の会
〒162-0065 東京都新宿区
住吉町10-8 第1菊池ビル302号
TEL：03-3354-6377
（FAX兼用）
http://www.marrow.or.jp/tokyo/
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp
定価 100 円

バラに包まれた 第21回ピアノ三重奏コンサート

●選曲にもフランスのバラのかおりを

ヴァイオリニスト　三戸 素子

「バラの花をテーマにしたらどうかしら。」という考えが湧いてきたのは、この春のことでした。

1992年より、もう20年以上も続いている東京の会主催の骨髄バンクチャリティ「ピアノ三重奏コンサート」。ここ6年ほど千葉県にある薔薇園「なかさわナーセリー」様から、はっとするほど見事なバラが届けられ、会場で販売されています。それを買って帰るのを楽しみにしているお友達が何人もいらっしゃるのです。

5月、新宿の全労済ビルで皆で集まっての打ち合わせの時、提案させて頂いたところ、さすがは東京の会のメンバーで、「ロビーにバラにちなんだ物を飾ろう「作業所の手作りクッキーは?」等々、見る見るうちにアイデアが膨らんで、直ぐに「バラのかおりのコンサート」が形をとり始めました。

毎年、コンサートを開催するのに苦労するのは、会場の予約です。芸術の秋、11月はとても競争率が高く、特に週末はものすごい人気です。今年は東京の会会員のご協力で、11月10日の日曜日という最高の日取りで、虎ノ門にある発明会館ホールが使わせて頂けることになりました。

もうひとつ、やはり特別のご尽力とご好意で、プロフェッショナルのグラフィックデザイナーの手による、バラとト音記号をあしらった素晴らしいチラシが上がってきました。朝日新聞や読売新聞にも取り上げていただき、前売りの反応も好調です。

私たち演奏家の方も、今年はいつもの英国のピアニスト、

手作りで飾り付けられたロビーとバラグッズ売り場

アンコール曲は願いを込めて「明日に架ける橋」

ティム氏が体調を崩して来日出来ないところを、長年の音楽仲間ラファエル氏が快諾してくれ、納得のプログラムと音楽作りをすることができました。

「バラのかおりのコンサート」でイメージすると、フランス印象派の曲が浮かんできます。近年再発見され、専門家の間でもトレンディな若きドビュッシーのピアノ三重奏曲、屈指の名曲ラヴェルの三重奏曲はクラシックが初めての方も、通の方もきっと楽しんでいただける曲目です。それにスペインの作曲家トゥリーナの、「朝」「昼」「夜」と名付けられた3曲の小品を組み合わせた「サークル －円－」という珍しい曲を取り合わせました。音楽の花束です。

コンサート当日は心配していたお天気も大丈夫で、お客様をお迎えすることが出来ました。いつにも増して凛とした見事な茎の長い大量のバラ。心を込めて準備して下さった飾り付けがほどこされたロビーには、バラにちなんだ小物がならび、素敵な秋のイベントになりました。

当日配布された、バラをデザインした綺麗なプログラムは、骨髄バンクの生きいきしたメッセージが満載です。そしてミニシンポジウムでは、ドナー経験者でもある若いナレーターさんによる初々しい司会で、毎年感動を新たにするドナー体験談と移植体験談を交え、私たちも信頼する音楽仲間同志で音楽の世界に入っていきました。私たちが骨髄バンクを知るきっかけとなった、友人の金井いづみさんも、きっと天国から喜んでくれたに違いありません。

例年より多くのお客様がお出でになり、華やいで終わった今年のチャリティコンサート。スタッフの皆さま、特に中心に

なって、貴重なお時間と身を削ってのご準備、そしてチケット販売をして下さった皆さまに、心より御礼申し上げます。

●選曲と演奏にトリオの神髄を見ました

ピアノ三重奏チャリティーコンサートは「サンクトフローリアン・ピアノ三重奏団コンサート」として1992年にスタートしてから21回を数えます。この2年は、お仕事の都合でピアニストのフィリップ・ヤングさんが来日できなくなったため、2012年はイギリス人のティム・レーベスクロフトさん、今回は日本在住のメキシコ人ラファエル・ゲーラさんがピアニストとして参加してくださいました。

ピアノ三重奏は通常、ピアノ・ヴァイオリン・チェロの三つの楽器で演奏され、各楽器が独立性と協調性を求められるのではないかと思われますが、ピアニストが替わられてもトリオは毎回素晴らしい演奏を披露してくださいます。

今回の演奏曲目はドビュッシー、トゥリーナ、ラヴェルの３人の作曲家のピアノ三重奏曲でした。トゥリーナの名前ははじめて知ったのですが、スペイン生まれの作曲家で、パリで活躍していたドビュッシー、ラヴェルの知己を得て多彩な分野で曲を残しているそうです。その割りに日本では名が知られていないように思いました。フランス印象派音楽の旗手の二人と、その影響を受けながらスペインの生まれ故郷アンダルシアの民族性のリズムが感じられる作風を残したトゥリーナを選んだ、トリオの皆さんの選曲の意図を見つけたように感じました。（新田恭平）

●チャリティーコンサートの準備に参加して

11月10日、今年も三戸さん、小澤さんのご厚意によるチャリティーコンサートの季節がやってきました。

毎年なかさわナーセリー様からのご好意で提供して頂くたくさんのバラを、東京の会のコンサートの特色にしようという素敵なアイディアを三戸さんからいただき、バラのかおりのコンサートと命名しました。

でも、いざ準備となると大変でした。どうしたらバラのかおりがするのか？友人に声をかけ、バラのグッズを集めました。トールペイントや絵手紙やボタニカルアートの絵葉書を探し、松下さんのお友達にはプリザーブドフラワーを提供して頂き、バラのグッズ売り場を作り上げました。私たちもポプリの容器やマカロンを手作りし、木製のクリップにバラの絵を描くなど奮闘しました。バラの雰囲気を出そうと会員の山本さんのお知り合いからお借りしたバラの写真を飾るなど、ボードに貼る看板や装飾にもこだわりました。バラづくしのロビーでは、ひまわり作業所のクッキーも大好評でしたし、がんばろう石巻の支援グッズコーナーも彩りをつけてくださいました。

初めての試みでドタバタしたところはありますが、良い経験になりましたし、いつも中心になって下さっている方々の大変さが少しわかりました。三戸さん小澤さんラファエル・ゲーラさんはもちろんのこと、会場関係者、素敵なパンフレットやプログラムを作って下さった鳥羽さんやお友達のデザイナーさん、バラをアレンジメントしてくださった方、司会をひきうけて下さった方などなど、他にもバラのかおりのコンサートを開くにあたりご協力くださった皆々様、本当にありがとうございました。そして来場いただいてコンサートを盛り上げて下さった皆様ありがとうございました。感謝申し上げます。（櫻井洋子）

当日のスタッフと出演者（手前右側３名）

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー
（平成25年11月末日現在）

	ドナー（全国）	ドナー（東京）	患者（全国）
登録者累計	440,369	57,075	40,321
10-11月登録分	6,050	527	512
10-11月抹消数	2,695	323	－
実質登録増	3,355	204	－

患者とドナー登録・適合状況（11月末日現在）

ドナー登録受付者数（累計）	597,773人
ドナー登録抹消者数（累計）	157,404人
HLA適合報告ドナー数（累計）	215,284人
実質登録患者実数（現在）	2,554人（国内1,414人）
HLA適合患者数（累計）	32,628人（患者累計数の80.9%）
非血縁移植実施数	16,317例（10-11月実施234例）

心のこもったご寄付ありがとうございました。（2013.10.16～12.15）

東京マリーン・ロータリークラブ　277,090円／若林 清治さん　3,000円／岸 康彦・清子さん　20,000円
笠 優子さん　4,000円／内田 恵美子さん　3,000円／堀 雅子さん　10,000円／遠藤 伸子さん　3,000円
中森 巖・立子さん　10,000円／花田学園・櫻井 康司さん　10,000円／ニューロン本部　100,000円
中川 里枝子さん　2,000円／名川 一史さん　10,000円／丸尾 悦子さん　7,000円／哀丘 多朗さん　2,000円
河村 朝子さん　10,000円／西郷 京子さん　10,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費（年3,000円）を差し引いて掲載させていただきました。

回を重ねて成長しました
SNOW BANK PAY IT FORWARD 2013
荒井daze善正

11月16～17日、3回目を迎えた「SNOW BANK PAY IT FORWARD 2013」を、今年も無事に開催する事が出来ました。今年は、昨年以上に集客する事が出来て、献血実施者は60名、骨髄バンクドナー登録者は44名にものぼりました。

毎年伸び続けるこの数字を見る限り、やはり若者は知れば協力してくれる事がわかりました。イベントのコンテンツも昨年以上に増えて、音楽ライブであったり、スケートボードであったり、ライブペインティングなども開催され、今まで以上に誰にでも立ち寄りやすいイベントになってきたのではないかと思います。

特に、ライブペインティングのテントの中で行なわれていた「DAZE語録」の展示は好評で、その語録を見て行動してくれている人も少なくありませんでした。また2日目に開催された、原千晶さんと女子プロスノーボーダーとのトークLIVEは、参加していた女子ライダー自身の心に響いていたようです。

そして骨髄バンクトークでは、自身が慢性白血病患者でありスノーボーダーであり帝京大学の血液内科医である白崎さんと、その患者さんでスノーボーダーの平川さんと、急遽前日にFacebookを介してメッセージをくれて青森から参加してくれた、ドナー提供者でフリースキーヤーの田中さんにも参加していただき大いに盛り上がりました。聞いていた若者達にも影響を与えていたようで良かったです。

今回は昨年以上にボランティアスタッフも充実していて、運営面でも良くなってきたのではないかと思います。今年は、事前に何度か自分で講演会を開催し、自分の経験や骨髄バンクの現状、このイベントの必要性を訴えかけてきました。その効果もあり、たくさんのボランティアスタッフに協力いただきました。何より素晴らしかったことは、スタッフがスノーボーダーや骨髄バンクに関係なく集まった事です。スタッフそれぞれが、ボランティアとして参加しながら、献血や骨髄バンクについて感じ、行動に移してくれた事が、とても良かったところだと思いました。

イベント終了後にボランティア反省会を開きましたが、みんなで「このイベントがどうしたら良くなるのか？」「ここが悪かった」などの意見交換もできて、すでに来年へ向けて動き始めている事を感じました。その反省会では、東京の会・若木さんにも来場いただき、骨髄バンクの現状について詳しく説明していただきました。やはりたくさんの人が集まり意見を出し合うと、とても面白いアイデアも出ますし、来年の開催が今から楽しみです。

司会進行を務める筆者（中央）

今年の反省点は、テントのレイアウトや、運営スタッフ側と骨髄バンクボランティアとの連携の仕組みを作れていなかった事などです。自分の私生活の変化もあり、昨年以上に限られた時間の中での準備のために、東京の会の若木さん、千葉の会の梅田さん、埼玉の会の笠原さんに直前にお願いする形になってしまい、色々ご苦労をおかけしました。ありがとうございました。そして当日スタッフとして、雪主としてご協力いただいた皆様には本当に感謝致します。

このイベントは10年は続けようかと思っています。ただ毎年の事ですが、お金集めには大変苦労しています。今年開催するにあたり、講演会を頻繁に開催してその場で雪主を集める活動を行いました。かなりの効果があり今年も続けて行きたいと思いますので、そのような講演をさせていただける場や、企業・イベント等がございましたらご紹介下さい。

来年も、今年以上に骨髄ドナー登録・献血を獲得できるイベントにし、闘病中の患者さんに勇気を持ってもらえるようなイベントを目指してまいりたいと思いますので、これからもご協力よろしくお願いいたします。

東京ドナー登録会予定（1月・2月）

1/13（月）神宮前　(千代田区)
1/15（水）赤羽駅東口　(北区)
1/27（月）晴海トリトンスクエア　(中央区)
1/28（火）晴海トリトンスクエア　(中央区)
1/29（水）晴海トリトンスクエア　(中央区)
1/30（木）港区役所　(港区)
2/12（水）赤羽駅東口　(北区)

患者からのメッセージ

闘病中でも日本一！「ジャン魂G」

Message from Recipient

吉澤　耕介

こんにちは、骨髄移植経験者の吉澤です。今この原稿は、来年の公務員試験の勉強の合間を縫って書かせて頂いております。

骨髄移植を行ったのが2011年、当時大学３年でしたから、もちろん休学を余儀なくされました。当時は重度の貧血で「憧れのキャンパスライフ」とはほど遠い悲惨な生活を送っていたので、そこからの脱却という意味では骨髄移植を受けることに何ら否定的な感情は抱きませんでした。現在はモラトリアム期間が２年間も伸びたことをポジティブに捉え、千葉で一人暮らしをしながら残りの大学生活を十分に満喫しています。

私の血液疾患との付き合いは長いです。小学５年、10歳の時に再生不良性貧血を発症、この時は幸い化学療法が功を奏し、10ヶ月の入院で回復に至りました。そしてその数年後に骨髄異形成症候群への移行が確認されましたが、特に症状に変化はなかったので無治療経過観察で普通に中学高校生活を送りました。

いたって健康で、何ら他の人と変わりなく青春を謳歌しました。病気を考慮して、小学生の頃やっていた野球は諦めざるを得ませんでしたが、中学から新たにチャレンジした卓球では、始めて２年で全国大会に出場するなど活躍しました。また勉強に、遊びに、恋愛に明け暮れました。今思うと、この期間を滞りなく過ごせたことは本当によかったと思うし、と同時に本当に幸運だったと思います。

急性骨髄性白血病に転化したのは大学３年時、2011年５月。移植しか選択肢が残されていないことは十分承知していましたから、すぐに骨髄バンクに登録しました。かなりの確率で白血病に移行することはもう中学の頃から知っていましたが、何となく心のどこかで自分だけはこのまま平穏に暮らしていけるのではないかと思い込んでいたりもしました。でもやっぱり移植することになって、受け入れの心とどこか他人事の心が強くせめぎ合っていました。しかしもうどうしようもなかったので、あっという間に治療開始、移植の話が進んでいきました。

まだまだ全然断固たる決意なんかできぬまま迎えた移植当日。バンクに登録してから約３ヶ月後の９月末日、非寛解状態でのミニ移植を無事受ける事ができました。登録から約３ヶ月でのスピード移植。本当にありがたかったです。

心の準備とか、覚悟とか、色々言われますけど、正直私は最後までできなかったです。精神的に幼かったということもあったのでしょうが、もう全部勢いでした。どれだけ苦しい状況でも自分が死ぬなんて思わなかったし、なんやかんやで大丈夫でしょ、と一日一日を乗り越えていました。

闘病の際や退院後の自宅療養中の心の支えになっていたものがいくつかあります。家族や友人、病院スタッフの支えはもちろんですが、他にこれがなかったら今の自分はないと言えるほどの支えがありました。ズバリ言うと、「週刊少年ジャンプ」です。今や国民的人気漫画となったワンピースが連載されている週刊誌です。

連載漫画にはもちろんお世話になりまくりでしたが、私が闘病中に情熱を注いで生きる糧としていたあるコーナーがあります。読者投稿コーナー「ジャン魂G」です。これは毎週ジャンプの後ろの方で細々と連載されている知る人ぞ知る読者大喜利ページ。毎回出されるお題に対し、ボケた回答をハガキやインターネットで編集部に送り、全国から寄せられたたくさんのボケ回答の中から、よりおもしろいとされる回答がジャンプに掲載され、４ヶ月間で一番多く回答が掲載された人が大喜利日本一の称号を手にするといった企画です。

私は病院のベッド上でバカでアホな回答を常に考えて、数えきれないくらいのネタを送りました。気の紛れる、熱中できることをやりたかったので、ひたすらアホな思考を繰り返しました。そして見事日本一に輝くことができました。

くだらない、そんなんで日本一になってもどうしようもない、と思うかもしれません。でも当時の私の楽しみのほとんどはこれでした。毎週ジャンプ発売日の前日は、楽しみと緊張で眠れないこともありました。ジャンプに自分のネタが掲載されていた時のあの高揚感は今でも忘れられません。入院していてあのような感覚を味わえる人はそうはいないんじゃないですかね。「俺、白血病で入院してるけど、俺の笑いのセンスが全国に通用してる！俺の名が全国に轟いた！」だから闘病中気落ちすることはほとんどなかったです。身近な人以外でも、私の存在を認めてくれている人たちがいたからです。どんな状況でも自分を承認してくれる居場所があれば人は生きられるんですね。

今の生活はすごく楽しいです。２年前が嘘のように全てが明るいです。ジャンプに投稿しなくても生きる事ができています。なぜなら他に楽しい事がたくさんあるからです。これからはもっと楽しいことに出会えると確信しています。

2011年、12年、私に関わってくれた全ての人にありがとう。これからも一緒に生きていこう。

骨髄提供者からのメッセージ

泣いて、泣いて、今はドヤ顔

Message from Donor

種　麻子

みなさん、はじめまして。ドナーとして骨髄提供をしました、種麻子と申します。

私はドナー通知が届いてから提供まで、本当にいろんな事がありました。親の壮絶な反対、鼓膜炎に歌舞伎の追っかけに資格試験……連載企画を頂かないととても全部は話しきれません（笑）。ですので今回は、私の感じたことを中心に話していこうかなと思います。

私のドナー通知が届いたのは、忘れもしない2011年３月25日。東日本大震災からちょうど２週間後でした。誰とも連絡がつかず、一人とても心細かったのを覚えています。テレビから流れる情報は「海岸に遺体が200体あがりました」とか、「300体になりました」とか……その光景が想像できないせいか涙も出ず、呆然としている……そんな２週間後に届いたドナー通知でした。

自分が候補になったことと、今の状況と海外渡航歴などを答えるアンケートが入っているだけのものですが、募金がせいぜいで何一つできない自分の存在を考えていた時だけに、「たった一人だけど、自分が助けられるかもしれない」と、その嬉しさに号泣してしまいました。

その後、私は第２候補者になったという連絡が来まして、保留という形になりましたが、「第１候補の方が断られたので、種さんにお願いできますか？」と電話が来た時は……宝くじに当たったという心境でしょうか（実際宝くじに当たったことはありません・笑）

しかし大変だったのは、その後だったのです。母親が動揺したのかわかりませんが、最終同意の署名がなかなか進まなかったのです。詳細は省きますが、私が冷静に、ちゃんと自分の気持ちを伝えられていたら、もっともっと早く採取日が決まっていたのに、もっともっと早く患者さんに骨髄を届けられたのにと、今でも後悔しています。

そして、骨髄採取当日。私は実は外科的な障害をもっており、その手術のために過去４回も全身麻酔を経験していますので、オペ室や麻酔が怖いとか、そんなことは一切ありませんでした。おそらく当日の病院のオペ室で、唯一健康体で笑顔の私は、不謹慎だったのかもしれませんね。

麻酔から目が覚めたとき、コーディネーターさんが渡してくれたのは、私が骨髄を提供する患者さんからの手紙でした。

『お体を十分に気をつけてください。ご家族のご理解にも深く感謝しております。』

という、あったかい内容で、涙があふれました。きっと患者さんも辛い前処理、移植後の体調、ご自身の年齢を考え、相当覚悟をされていたのでしょう。それが、手紙から伝わってくるようでした。

私は退院後、すぐお返事を書きました。その覚悟が現実となったなら、この手紙が最後かもしれない。でも返事が戻ってこなくても助かったと信じる……今出来ることは、私の手紙で笑って元気になってもらうことだと、でもご家族の方が読んでも失礼のないように……そんな想いで書いたのを覚えています。

そして、その年のクリスマスイブイブ。自宅のポストにあったのは、患者さんからのお返事でした。返事が遅くなったことのお詫びと、週２回の通院になったこと、「良い年」になったと、元気な様子で……あまりの嬉しさに30分は泣き続けたと思います。生涯、絶対に忘れないクリスマスプレゼントです。

生きている意味とか自分の存在の必要性だとか、誰かのためにだとか、そんな壮大な気持ちは、おそらくドナー経験をするとなくなってしまいます。とにかく嬉しいのと、人が救えたぜ！という自己満足しかありません（笑）。でもこの自己満足は、これからの自身を支える大切なもので、何にも代え難いものです。

今、患者さんに伝えたいことは、「私を見つけてくれてありがとう」です。

余談）献血の時、「ドナー登録しませんか？」の問いかけに、「ドナー経験者です！」とドヤ顔でいうのが好き……

▼東京の会では、骨髄ドナー登録者拡大活動として、献血ルームにおけるドナーリクルート活動をおこなっています。特に今年は、活動の場所を有楽町と新宿東口の２か所の献血ルームに絞りました。同じ場所で繰り返し活動することで、経験を蓄積することを目的としたのです。その結果、リクルートの方法も回数を重ねることで改善されてきましたし、献血ルームの職員の方々ともお互いに顔見知りになることで理解が深まり、より良い協力関係が築けるようになってきました。実際に登録数も昨年以上に拡大できる見通しも立ってきました。関係者の努力が実を結ぶ結果となり、嬉しい限りです。

▼そんな中、ショッキングなニュースが飛び込んできました。エイズウイルス（HIV）に感染した献血者の血液が、日本赤十字社の安全検査をすり抜け、患者２人に輸血されていたと報道されたのです。厚生労働省と日赤が輸血を受けた人の感染の有無を調べたところ、１人がHIVに感染していたことが明らかになりました。

▼日赤の安全検査では、ウイルスの遺伝子を増幅させて検出する高精度の「核酸増幅検査」を導入していますが、2003年に発覚した輸血によるHIV感染事例のあと、安全対策を強化して検査制度を上げるために、50人分の血液をまとめて調べていた手法を20人分に見直して運営してきました。今後は検査を単体で行うなどの更なる安全対策が求められ、血液事業部会運営委員会などで検討する対策のいっそうの充実が急がれるところです。

▼ただしHIVの感染初期は、血中のウイルス量が少なく、検査してもウイルスを発見できない期間があり、遺伝子の増幅だけでは判断できない可能性もあります。現在の技術ではすり抜けを完全には防げない状況です。そこで問題になってくるのは、献血する側の状況がどうであったかです。

▼献血する際には、献血申込書と問診表を記入します。問診表では、体調や現在の健康状態、過去の病歴や渡航暦などを自己申告で記入します。今回のすり抜けのケースでは、献血者がこの問診表にウソの申告をして献血をおこなっていた事実が発覚しています。いくら医師による直接の問診や聞き取りをおこなったとしても、ウソの申告をしていたら見破ることは困難です。そのような悪意のある人はごく少数だとは思いますが、採取された血液が利用される用途を考えれば、重大な過失といえるでしょう。

▼また、HIV検査の目的で献血をおこなう場合もあるという報告もあります。献血でHIV感染が判明しても本人には通知されません。採取した血液が破棄されるだけです。本当に検査結果を知りたいのであれば、保健所が匿名・無料で検査をおこなっています。また郵送でHIV抗体を調べる検査キットも販売されています。これらの方法を利用しHIV感染の検査をおこなうべきであり、検査目的の献血は決して許されません。

▼厚生労働省のエイズ動向委員会からは、献血時の検査でHIV感染が判明した例が、今年１月～９月に55人だったと発表されました。献血者10万人当たりでは1407人。いずれも前年同期とほぼ同水準ですが、検査目的での献血者も含まれていると見られます。一方、今年７月～９月の３ヶ月で新たに報告のあったHIV感染者は261人（前年同期は273人）、エイズ発症患者は108人（同111人）。感染者と患者の累計は９月末で２万2568人となっています。

▼今後また、献血ルームでおこなうドナーリクルート活動においては、問診票記入の重要さを改めて認識するとともに、献血ルームの職員の方とも充分コミュニケーションをとって、しっかりと問診表をウソ偽りなく記入してもらうように現地での誘導をいたしましょう。（A）

東京の会
「１月、２月定例会」のお知らせ

1月25日（土）、2月15日（土）午後5時30分より
※2月は会場の都合により第3土曜日の開催となります。
会場：全労済東京会館3階会議室
※JR新宿駅西口下車7分（新宿区西新宿7-20-8）
※地下鉄丸の内線西新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署向かい・「キャン☆ドゥ」角入り右側

※3月定例会予定・3月22日（土）午後5時30分より

3月会報発送
「おりおり」のお知らせ

2月の「おりおり」はありません！
会報が隔月刊となったため、発送作業も奇数月のみとなります。
3月1日（土）13時00分より
※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。
場所：品川運輸・4階会議室（品川区東大井2-1-8）
JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分
※今お読みになっている「東京の会通信」を約1000部折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。
※5月「おりおり」予定・5月10日（土）13時00分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしています。